

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 3 区分
【発行日】平成26年9月18日(2014.9.18)

【公開番号】特開2014-135070(P2014-135070A)
【公開日】平成26年7月24日(2014.7.24)
【年通号数】公開・登録公報2014-039
【出願番号】特願2014-44034(P2014-44034)
【国際特許分類】

G 0 6 F 13/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 13/00 3 5 3 V

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月31日(2014.7.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

コンピュータが、

アプリケーションの実行に必要な設定情報が記憶される設定情報領域から抽出された前記設定情報を、同期用設定情報として所定のデータ形式で同期用設定情報記憶部に記憶し、

前記アプリケーションが前記設定情報領域に格納されている前記設定情報を参照する状態から、前記アプリケーションが前記同期用設定情報記憶部に格納されている前記同期用設定情報を参照する状態に変更して前記アプリケーションを起動し、

前記同期用設定情報を含む、前記アプリケーションの実行に必要なデータを、所定のタイミングで他のコンピュータに送信する、

アプリケーション同期方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のアプリケーション同期方法であって、

前記コンピュータは、

前記アプリケーションの実行に前記同期用設定情報が必要となった際に該同期用設定情報が前記同期用設定情報記憶部に記憶されていない場合、該同期用設定情報に対応する設定情報を前記設定情報領域から抽出して前記同期用設定情報として前記所定のデータ形式で前記同期用設定情報記憶部に格納する、

アプリケーション同期方法。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のアプリケーション同期方法であって、

前記コンピュータは、

前記アプリケーションの実行に必要なデータの一つであるユーザデータが格納されるデータ記憶部とは異なる、該ユーザデータと同一のデータ形式のデータである同期用ユーザデータを同期用ユーザデータ記憶部に格納し、

前記アプリケーションの実行に前記ユーザデータが必要となった際に、前記同期用ユーザデータ記憶部に記憶されている前記同期用ユーザデータを参照するように前記アプリケーションを起動し、

前記同期用ユーザデータ記憶部に記憶されている前記同期用ユーザデータを所定のタイ

ミングで前記他のコンピュータに送信する、
アプリケーション同期方法。

【請求項 4】

請求項 1～3 の何れか一項に記載のアプリケーション同期方法であって、
前記設定情報領域に記憶されている前記設定情報と、前記同期用設定情報記憶部に記憶されている前記同期用設定情報とはデータ形式が異なる、
アプリケーション同期方法。

【請求項 5】

コンピュータに、
アプリケーションの実行に必要な設定情報が記憶される設定情報領域から抽出された前記設定情報を、同期用設定情報として所定のデータ形式で同期用設定情報記憶部に記憶する機能と、

前記アプリケーションが前記設定情報領域に格納されている前記設定情報を参照する状態から、前記アプリケーションが前記同期用設定情報記憶部に格納されている前記同期用設定情報を参照する状態に変更して前記アプリケーションを起動する機能と、

前記同期用設定情報を含む、前記アプリケーションの実行に必要なデータを、所定のタイミングで他のコンピュータに送信する機能と、
を実現させるためのプログラム。